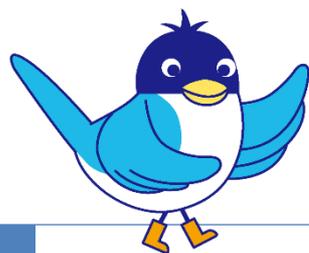


地域包括支援センターの現状



令和5年5月17日

池尻あんしんすこやかセンター 河野由香

世田谷区地域包括支援センター

- ▶ 平成18年4月より、「あんしんすこやかセンター」開設。
- ▶ 現在、身近な福祉の相談窓口として、まちづくりセンター内に設置。
- ▶ 職員は、社会福祉士、保健師等、主任ケアマネジャーの資格を有する者が配置。
- ▶ 職員配置 6.2人～12人
- ▶ 月～土曜日 8:30～17:00 窓口開設。
日、祝日、時間外は電話転送にて対応。



あんしんすこやかセンターの仕事

区の委託事業

(あんすこパンフレット参照)

- ▶ ① 総合相談支援業務
- ▶ ② 権利擁護業務
- ▶ ③ 介護予防ケアマネジメント
介護予防日常生活支援総合事業
- ▶ ④ 包括的・継続的ケアマネジメント
- ▶ ⑤ 医療・介護連携の推進
- ▶ ⑥ 認知症ケアの推進

介護予防居宅介護 支援事業所

- ▶ 相談・ケアプラン作成
- ▶ a: 介護保険認定
「要支援1」「要支援2」
- ▶ b: 事業対象者

主な相談経路

- ▶ 本人
 - ▶ 親族・後見人
 - ▶ 介護サービス・ケアマネ
 - ▶ 医療機関
 - ▶ 民生委員
 - ▶ 近隣住民
 - ▶ 管理人
 - ▶ 金融機関
 - ▶ 警察
 - ▶ 商店(コンビニや宅配業者) など
-



事例1 認知症・一人暮らし 地域で見守り協力を続けているケース

- ▶ **相談前**: 数年前から、身なりを気にしなくなり、家がわからなくなる、用事を忘れることが目立ち始めた。
- ▶ **きっかけ**: 心配した**近隣住民**、**郵便局員**、**コンビニ**、**薬局**の方から、あんしんすこやかセンターへ連絡。
- ▶ **現在**: 介護サービスを利用しながら、ゆるやかな見守りの中、住み慣れた自宅で生活している。



事例2 医療・介護サービスと連携で 在宅生活を支えたケース

- ▶ **相談前**: 本人、夫と娘と3人暮らし。
転ぶことが増え受診。進行性の難病と診断。
 - ▶ **きっかけ**: 介護ベッドを借りたいと夫より相談。
 - ▶ **経過**: 病状の進行とともに、医療サービスを調整。
4年間、何度も本人、家族、訪問医師、看護師、ヘルパー、リハビリ職、福祉用具相談員らと話し合い、本人が望む最期を迎えた。
-



事例3 生活が困窮していたケース

- ▶ **相談前**: 一人暮らし。長年、日雇い労働を続けていた。
- ▶ **きっかけ**: 家賃滞納で**家主**より、
▶ あんしんすこやかセンターへ連絡。
- ▶ **経過**: 何度も訪問、手紙を残すが会えない状況。
- ▶ **民生委員**へ協力依頼し、ようやく話すことができた。
「社会変化や年齢とともに、仕事が無く、収入が激減。生きる意欲も低下し、自分でもどうしたらいいかわからない」と本人より。
- ▶ **区役所**へ一緒に行き、生活保護申請、生活を立て直した。



事例4 40代 社会から孤立していたケース

- ▶ **相談前**: 大学卒業後、就職したが人間関係がうまくいかず、退職。約20年就労せず家にいた。
- ▶ **きっかけ**: あんしんすこやかセンター職員より母親の実態把握訪問の際、息子に関する話があった。
- ▶ **経過**: 母親、**区保健師**、**精神科医**、**ぽーとせたがや**等と何度も相談。訪問を繰り返すうちに、本人に会うことができ、徐々に話はじめるようになった。以降、約10年、相談継続。
- ▶ **現在**: 自ら就労したいとの意向があり、**ぷらっとホーム(生活困窮者自立相談支援センター)**へ繋げ、のちに就労。本人から、仕事の報告に来所、高齢の母親を気遣う話をするようになった。現在、定年後の生活について相談中。



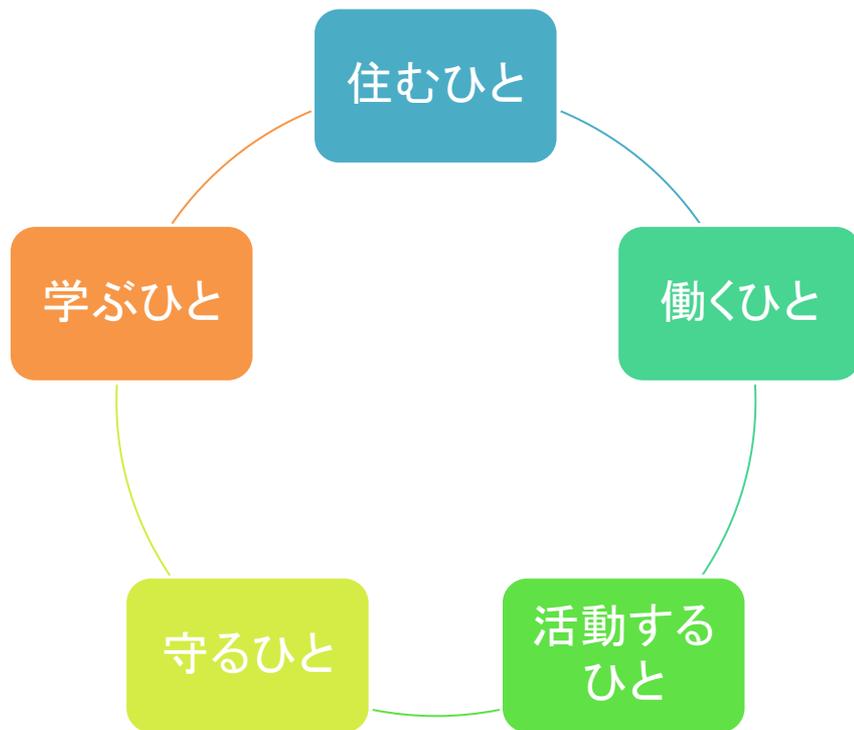
事例5 70代 活躍の場を探しているケース

- ▶ **相談前**: 60代半ばまで就労。
親の介護も終え、自由な時間ができていた。
 - ▶ **きっかけ**: あんしんすこやかセンターよりチラシをポスティングしたところ、来所。介護予防の話には無関心だったが、その頃、他県で震災があり、話題に。災害対策について情報提供。
 - ▶ **経過**: マンション暮らしで地域とは繋がり無く、知人もいないため、何か活動できることはないかと相談あり。
町会、生涯大学、ボランティアセンター、社協等を紹介。
 - ▶ **現在**: 世田谷区シニアボランティア研修を受講し、地域のイベントや講座の運営協力などで、地域の担い手として活動中。
-



事例6 こんなこともしています

～ 「三宿池尻まちこま会」(まちの困りごとを考える会) ～



▶ 【今までの参加者】

- ▶ 住民(民生委員・町内会・地区社協等)・福祉施設(グループホーム)・集合住宅管理組合・小中学校・PTA・専門学校・大学・保育園・幼稚園・学童保育・放課後デイ・金融機関・宅配業者・商店会・スーパー・介護サービス事業所・子育て支援団体・消防・警察・行政 など

▶ 子ども？

▶ 障害？

▶ 高齢者？

▶ ひきこもり？

▶ 属性を問わず誰もが・・・

➡ 地域のひと・資源

▶



事例7 こんなこともしています

～ 認知症や障害、属性や世代を問わずひとが繋がれる機会を ～



商店会からお仕事依頼！
イベントの飾りを作りました



コロナに負けるな！
子どもも大人も、
みんなで作成！



児童館の子供たちと地域の高齢者や障害
のある方だれでも交流！

世代を問わず、
だれでもお花見
みんなで企画！



あんすこ活動を通して感じていること

- ▶ ①相談内容が複雑化・経路の多様化
 - ▶ ②福祉人材不足(何でもあんしんすこやかセンターでは、職員も疲弊、限界がある)
 - ▶ ③どんな高齢者も広く活躍できる機会
 - ▶ →支える側・受ける側という概念を超える地域づくり
 - ▶ ④効率化 介護予防DX

 - ▶ ~時代の変化に合わせた内容、方法の変化を~
-



これからも、
よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

